

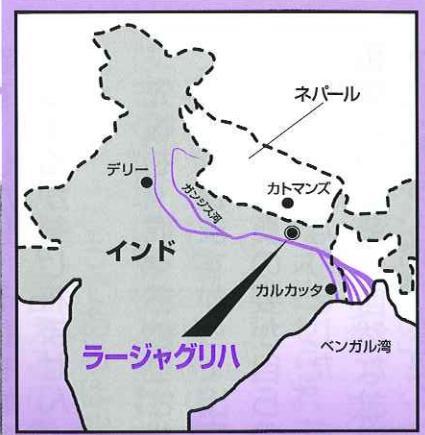
No.17 2004.3.15

身近なお寺の情報誌



▲「靈鷲山全景」

►「山頂の香室社」



りょう 靈 鷲 山

『無量寿經』の冒頭には、「あるとき世尊(お釈迦さま)^{おうしゃじょうさ}は、王舍城(ラージャグリハ)の鷲の峰においてになって、一万二千のすぐれた弟子たちとご一緒にいた」と記されている。その「鷲の峰」に靈鷲山という名がつけられている。お釈迦さまは、この峰に居ることを好みここで多くの大衆に説法されている。

教えは鏡
猶如水
其の事

浄土真宗の教えは、様々な側面から見る事が出来ますが、その中の一つに「鏡」という見方があります。

所 寺田 崇裕

写真にしてもそつなのですが、見たものをそのまま写していくと考えられます。しかし、それも場合によつては、実際よりも良かつたり、又は悪かつたりするかもしません。

先般も、偶々お参りされた方々を写真に写す機会がありました。今は簡単に現像できますから、出来上がりました写真をお送りすると、受け取られた方から、写真の姿が自らの想いと違われたのか、非常に落胆したというお話を聞く事になりました。曰く、「何か非常に歳をとったように見える」と。私は「兎に角、自然なお姿を撮りたかったのですよ。」とお伝えしたのですが、どうやらそれは良くなかったのかもしれません。

「写真^{げん}写^うりが悪い」と一般に言われる時、それは写真の現像方法や写し方が悪いと云つよりも、見る側の意識で良い、悪いが判断されてしまうのだ
と、改めて考えさせられました。

写真や鏡は写ったものをそのまま出すのですから、その事に関する口を
はさむ余地は無ないと思われるのですが、特に自分自身の場合、「トトツ見られ
たい」、「トトツであるはず」という気持ちが、そのままの姿を受け取る事を
邪魔してしまふのかもしません。

そのものの本質を見る」と、それは仏教で非常に重んじられています。本質は現実であり、現実は次につながる根本であるからという考えがもととなつて、様々な事象の研究がされてきました。

浄土真宗はその中で何よりも人間、それも自分自身に焦点をあてたと言え
るでしょう。写真や鏡では分からぬい自分自身の本質を、より深く見る事が
ら始まり、自分自身への想いと本来の姿との違いを見極めようとされたの
が、親鸞聖人その人であったのかもしれません。

親鸞聖人は高僧和讃とうたうに「虚偽不実のわが身」と述べられ、自らの想いと本来の姿は違いすぎると述懐されますが、その中にこそ人間の進む道があると、仏の示す道を歩まれたのでしょう。

組長就任あいさつ

小林 泰善

私、二〇〇三年四月より、前任者林信順師の後を引き継いで組長の任を勤めさせていただくこととなりました。

神奈川組には、連続研修会・仏教壮年会・仏教婦人会連盟「めぐみ会」等の僧侶・門徒が一体となつた活動があります。近年宗門では、組活動が各寺院や布教所のご法義繁盛に資するということが評価されつつあります。そのような意味からも、各組活動がますます充実するよう努力していきたいと存じます。また、都市開教推進の上でも重点地域として、各拠点が充実発展するよう組を挙げて努力していかなければなりません。

また、宗門では親鸞聖人七五〇回大遠忌にむけての動きが始まっています。宗祖の大切なご法要をお迎えするにあたりそろそろ準備が始まることと思います。

神奈川組は広域にわたる組であるにもかかわらず、組の事業が充実しています。その理由は、組内各寺院・布教所のご住職の積極的な協力があつたからですが、何よりも和合の精神が豊だったことに他ならないと思います。

いずれにしても神奈川組のみなさまのご協力なくしては先に進みません。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。



宗派の動き

西本願寺第二十四代門主がはじめて語る
生きること、老いること
そして死ぬこと

■朝には紅顔ありて（角川書店）

大谷光貞著 朝には
紅顔ありて

角川書店

248頁 03年4月下旬刊行予定

全国書店で好評発売中

ご門主のご著作は、本願寺出版社や専門書店から数多く刊行されていますが、一般書店からの出版は今回が初めてです。本書は、浄土真宗のみ教えに出遇ったことのない人や寺院との関わりが少ない人たちにみ教えが伝わるようにわかりやすい文章で書かれています。

混沌とした現代社会を生きる人たちへの仏教入門書として全国書店に配本されて大きな反響を呼び、既に四十万部を突破しており、好評で版を重ねています。ご門徒の皆様にはぜひご購読いただきますようご案内申し上げます。

校されます。詳細は所属のお寺までお問い合わせください。

神奈川組仏教壮年会

組内の各寺院から集まつた会員が活発に活動中。二〇〇四年度より新しく「歎異抄に学ぶ」がスタートします。講師は、宝光寺の藤田恭爾師。年四回程開催いたします。どうぞ、この機会に仏教壮年会にご参加ください。

■第七期連続研修会スタート
連研（連続研修会）は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教えを体系統的に学んでいただくことを目的に開催されています。二〇〇三年十月十八日（土）から第七期がスタートいたしました。偶数月の第三土曜日に開催し、全十二回で構成されています。テキストは神奈川

神奈川組の動き

■第七期連続研修会スタート
連研（連続研修会）は、門信徒の皆さまに、浄土真宗のみ教えを体

系統的に学んでいただくことを目的

に開催されています。二〇〇三年

十月十八日（土）から第七期がス

ートいたしました。偶数月の第三

土曜日に開催し、全十二回で構成

されています。テキストは神奈川

■第三十三回

南ブロックお寺の林間学校

毎年、神奈川・静岡・山梨三県

から小学校三年から中学三年の子供たちが集まり開催されています。

今年は七月二十七日（火）～二十九日（木）神奈川県三浦組の担当で開

【二〇〇三年度慶弔】

▼開所

六月 青葉布教所

（西村信也専従員）

▼慶賀

十月 最願寺山門落慶法要

童謡詩人

金子 みすゞ

金子みすゞさんが生まれた仙崎は、古くからの漁師町で、船の寄港地でもありましたので、文化経済の町となりました。みすゞさんは、六年というとても短い時間のなかで、生きとし生けるもののいのちをうたい続け、たくさん詩を残しました。

「大漁」

朝焼小焼だ
大漁だ
大羽鱈の

金子みすゞは、一九〇三(明治三十六)年、山口県長門市仙崎に生まれた。本名を金子テルといい、二十歳頃(大正十二年)から詩をつくり、雑誌に投稿を始めた。ペンネーム“金子みすゞ”で初めて投稿した詩が『童話』『婦人俱乐部』『婦人画報』『金の星』四誌に一斉に掲載された。西条八十から「若き童謡詩人の中の巨星」と賞賛され、当時の童謡詩人たちのあこがれの星となつた。しかし、二十六歳の若さで亡くなつたため、その作品は散逸してしまったが、没後五十年余を経た一九八一年五百十二編の遺稿集が発見され、『金子みすゞ全集』(JULIA出版局)が出版された。

やうだけど海のなかでは
何萬の
鰐のとむらひ
するだらう。
私たちにはとれないの。
友だちやみんなよつてゐて、
なにかしないぢやるられない。
更けてお家へかへつても、
なにかうれしい、ねられない。
「お番」の晩は夜なかでも、
からごろ足駄の音がする。

「お番」の晩は雪のころ、
雪はなくとも暗のころ。
くらい夜みちをお寺へつけば、
とても大きな蠟燭と、
とても大きなお火鉢で、
明るい、明るい、あたたかい。
大人はしつとりお話で、
子供はさわいぢや叱られる。
だけど、明るくにぎやかで、

みすゞさんの詩のなかに、「報恩講」という詩があります。報恩講は、浄土真宗のご開山・親鸞聖人のご命日を機縁としてつとめられる法要で、各お寺などでは、一年でもつとも大切にしている行事です。

「報恩講」

「お番」の晩は雪のころ、
雪はなくとも暗のころ。
くらい夜みちをお寺へつけば、
とても大きな蠟燭と、
とても大きなお火鉢で、
明るい、明るい、あたたかい。
大人はしつとりお話で、
子供はさわいぢや叱られる。
だけど、明るくにぎやかで、

忘れてるても、佛さま、
いつもみてるてくださるの。
だから、私はさういふの、
「ありがと、ありがと、佛さま。」

黄金の御殿のやうだけど、
これは、ちいさな御門なの。
いつも私がいい子なら、
いつか通つてゆけるのよ。

この詩から、みすゞさんの家庭が、いつもお仏壇を中心につつたことがうかがえます。そして、「ありがと、ありがと」とお念佛しているみすゞさんの姿が目に浮かびます。佛さまと一緒に見えます。仙崎の町やみすゞさんのお家は、お念佛が溢れていて、みすゞさんはお念佛に生かされ、お念佛のなかで育てられたのです。金子みすゞといふいのちをうたう童謡詩人はお念佛によって育てられたのです。

「お佛壇」
お背戸でもいだ橙も、
町のみやげの花菓子も、
佛さまのをあげなけりや、
「お佛壇」という詩もあります。

朝と晩とに忘れずに、
私もお禮をあげるのよ。
そしてそのとき思ふのよ、
いちんち忘れてゐたことを。

参考図書
『金子みすゞのいち見つめる旅』中川真昭著 本願寺出版社
『金子みすゞ童謡集』金子みすゞ著 ハルキ文庫
『新装版 金子みすゞ全集』金子みすゞ著 JULIA出版局

いのちへの視点

本山の教学伝道研究センターで昨年十一月一日に、高校生らをパネリストに招き、若者の死生観に焦点を当てた教学シンポジウム「いのちをみつめて—教育の現場からー」を開催したことが報道されていました。

そこでは、福岡県久留米市の農業高校で取り組んでいる二ワトリの飼育、解体、試食の実習を通じた「いのちの教育」をテーマに、パネリストらがいのちの尊厳とは何かを自らに問い合わせました。

「人間は生きるために必ず他のいのちをいただいている」ことを実感する教育。それはとて

も刺激的で、生徒の感情を揺さぶる教育であり、大きな効果があると思います。その様子はビデオで放映されたのだそうです。自分たちが手塩にかけて育てた二ワトリを解体する時の生徒たちの姿は見るものにも強い衝撃を与えたようです。

いのちの尊さを学ぶ
いろいろな形態があつて良いと思います。そのシンポジウムでもいろいろな意見がでたそうですね。その中には「戦争の恐ろしさを学ぶためには戦争をしなければわからないのか」という疑問を呈する意見もありました。

私はこの記事を読んでいろいろ

お考えさせられました。いのちの教育はどうあるべきなのだろうかと。

「いのちのはかなさを学ぶ」「人間は生物のいのちを奪わなければ生きていけない」とを学ぶ

「いのちへの感謝を学ぶ」

どれもとても大切な視点です。私たちが毎日食しているものも、少し前までは生きていたいのちであります。私たちが手をかけて殺したものでなくとも、生きていたいのちを食していることには変わりありません。

そこでいのちへの視点は、感謝を説いても食べる対象への感謝に止まってしまったとした

法燈明

ならば、それは自分都合の上の感謝でしかありません。いのちが単なる対象としての存在である限り、もしそれが憎しみの存在であるならば殺人をも厭わないことになってしまいます。

III

佛教の立場からの視点では、いのちに対する「私はどうあるべきであるのか」が、まず問い合わせの前提になればならないことについています。

「発菩提心」という言葉がありますように、佛教では自利利他円満の仏になる道を歩む決意が自らの行為を評価する基準となるのです。だからこそ、不殺生と言いながらも、我が身は他人のいのちを食さずには生きていけない苦しみを背負っていることに、気づかざるを得ないのです。そこでは、いのちに手をあわさずにはいられないのです。いのちへの視点に、まず我が家へへの視点が伴つてしまいのち

の教育と言えるのではないですか。さらに踏み込んでいえば、仏道への回心がなければ真の情操教育とは言えないのではないかと思います。

その心を、私たち佛教徒は必ず伝えてきたのです。お念仏に生きるということは、如来の大悲に感謝し、如来を鏡として生きることです。豊かな情操を育む教えが佛教そのものであるということができるのではないかと思います。

IV

大阪のシンボルの一つ大阪城。農民から天下人となつた、豊臣秀吉の居城として知られています。しかし、この大阪城はもともと本願寺であった事をご存知ですか？ 本願寺第八世門主、蓮如上人が一四九六年に現在の大阪城、石山に坊舎を建立したのが始まり。一五三三年、山科本願寺が戦国の争乱に巻き込まれて焼き討ちに合つたため、第十世門主証如上人が石山の坊舎に移られ本願寺と定められました。大阪の街のメインストリートの名前が御堂筋ということからも、大阪の

信長が欲しがり、本願寺と十年間に及ぶ戦争を経て信長の手に移り、本能寺の変で倒れた信長の後を継いだ、豊臣秀吉によって、大阪城が築城されたのであります。大阪の街が本願寺と縁の深い街であったことを伺う事ができます。



大阪城と本願寺

大阪のシンボルの一つ大阪城。農民から天下人となつた、豊臣秀吉の居城として知られています。しかし、この大阪城はもともと本願寺であった事をご存知ですか？ 本願寺第八世門主、蓮如上人が一四九六年に現在の大阪城、石山に坊舎を建立したのが始まり。一五三三年、山科本願寺が戦国の争乱に巻き込まれて焼き討ちに合つたため、第十世門主証如上人が石山の坊舎に移られ本願寺と定められました。大阪の街のメインストリートの名前が御堂筋ということからも、大阪の

仏事のこころえ

年回忌の勧め



今、子どもたちの凶悪な事件が起きています。少し前まで、子どもが人を殺害に及ぶという事は、考えられませんでしたが、今ではそう珍しくない事件となりました。「命の大切さ」を子ども達に、どのようにして伝えしていくのかということが問われています。

「命の大切さ」という事は、知識として学ぶことも大切ですが、生活の実践の中ではじめて身に付いていくものではないでしょうか。

私たち日本人は、人が亡くなると何よりも優先して、大切に仏事を執り行つきました。特に、子どもたちにとって親は、自分たちを護ってくれる、強くて大きな存在です。その親が身内を亡くして涙を流す姿に、子どもはビックリします。そして、四十九日・百ヶ日・一周忌・三回忌・七回忌と大人達が大切に勤めていく後ろ姿を見ながら「これほど長い間、多くの人が悲しむほど、人の命とは、大切なもののなか」と人の命の重さ・大切さを、仏事を通して学んできたという歴史が我々日本人にはあります。

お釈迦さまは身内の死というものは、辛いからできることなら避けて通りたいと思うかもしれない。しかし、その辛い出来事こそ、人間らしい優しい心を育む貴重なご縁もあるのだよ。大切に勤めなさいと勧められました。ご法事は、命の大切さを学ぶ実践の場でもあるのです。大切に勤めていきましょう。

ポストエイオス研究会
インターネットのホームページを開設。
法話や仏教情報などのページです。
<http://www.posteios.com>



テレホン法話
電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話
TEL.03(3541)0282
TEL.045(662)5629
- 長念寺テレホン法話
TEL 044(911)8282

ビハーラ電話相談
—老いの悩み、病の苦しみに—
相談日▶毎週月・金／午後2時～5時
浄土真宗東京ビハーラ(築地本願寺内)
TEL.03(5565)3418

ちょっと一息

このお言葉は、阿弥陀さまのお話はいつも初めての時の気持ちで聞きましょうと教えてくださいます。私たちは、一度聞いたことがある話は、わかつていてからと受けれないことがあります。しかし、それは頭で理解しているだけです。阿弥陀さまのお話は、何度も繰り返し聞いて、この私の身体に浸みこむものです。
阿弥陀さまの大悲はあきることなく常に私を照らしてくださっているのです。(「大悲無倦常照我」「正信偈」)
その私があきてしまっては申し訳ないのです。ご縁あるたびに共に聴いたしましょう。

『蓮如上人御一代記聞書』 第百三十条

「ひとつことを
いくたび聴聞申すとも、
めづらしく始めたるやうに
あるべきなり。」



新撰組をテーマにした、NHKの大河ドラマが始まりました。
新撰組は時代劇では非常に良く使われる題材ですが、今回の新撰組は脚本に三谷幸喜、主役の近藤勇は、スマップの香取慎吾を使うなどして、これまでの新撰組のドラマとは一味違った作品が期待できそうです。
さて、新撰組の屯所といえば壬生ですが、実は本願寺はその次の屯所であり、しかも新撰組四年間の中で一番長く使われていました。1864年の池田屋事件で新撰組が世に知れるようになり、これまで屯所として使っていた壬生の八木家が手狭となり、1865年の春に本願寺(西)の北集会所、現在の宗務所あたりに移転してきました。本願寺がドラマに登場する機会があるかもしれませんね。

雜学門徒の
9回目の
録り下ろし

本願寺と
新撰組

… 身近な仏教語 …

あばた

「あばたもえくほ」という諺があります。これは、好きな人には「あばた」という欠点でさえ、「えくほ」のように好ましく見えてしまうと言う意味です。

「あばた」とは、天然痘が治つた後に残る跡。または、それに似たもの。(広辞苑)という意味ですが、もともとこの「あばた」という言葉は、インドの言葉であるサンスクリット語「arbuda・阿浮陀」からきた言葉です。



仏教で説かれる八寒地獄の第一に、阿浮陀地獄というものがあります。嘘をついたり、悪口を言ったり、僧侶に対して軽蔑した言葉を言つたものが落ちる地獄といわれています。この地獄に落ちると、厳寒のために身体がただれて、あばたが生じ、大変苦しむそうです。

この「arbuda・阿浮陀」が「あばた」となり、天然痘が治つた後に残る跡の意味になりました。

天然痘は、1980年にWHOにより絶滅宣言が出されていますので、現在では存在いたしませんが、「あばたもえくほ」に見える恋心は今もなお存在しているようです。



上田紀行+高史明+芹沢俊介

共著『親鸞と暗闇をやぶる力』(講談社α新書/2003年)

文化人類学者として「癒し」という概念を日本に定着させた上田紀行氏、「親鸞論集全三巻」を昨年刊行した高史明氏、家族・子ども・教育問題に鋭い発言を続ける芹沢俊介氏による対談。闇のただ中でもがき苦しむこの私を救わんとする親鸞聖人の教えで、現在のさまざまな社会問題を考えるとどうなるかを積極的に論じています。三者によって「生きる力」が模索されています。



お寺を訪ねて(16)

JR南武線尻手駅を降り、ある商店街を抜けた住宅街の中に最願寺があります。

最願寺は、かつて延慶山実相院といい、創立は延慶元年(1308年)と伝えられ、開基は宇多源氏源三秀義の末流宗重であるといわれます。はじめは真言宗でしたが、慶長年間(1596~16149)に祐源が東本願寺の教如上人に帰参して現在にいたっています。

本堂前には板碑があります。緑泥片

岩の本格派板碑で、碑高165センチ弥陀三尊の種字及び觀無量寿經の一節「光明遍照 十方世界 念仏衆生 摂取不捨」と、延慶2年(1309)2月9日の銘があります。

この板碑は、当寺開山の墓碑とも伝えられ、鎌倉時代後期の造立として貴重なもので、『新編武藏風土記稿』には「古碑一基 境内墓所ノ入り口ニアリ 青石ノ板碑ニテ 長四尺余 幅一尺許ナリ 延慶二年二月九日ト記セリ 寺伝ニ往古真言宗ナリシ時ノ開山の墳ナリトイヘリ」とあります。

また最願寺には、白衣観音像が所蔵され、この観音像は多摩川の上流から流れてきた際、月夜の光を浴びて輝いていた。この地の名前、矢向(夜光)の由来になったといわれています(鶴見郷土史より)。



現住職藤江義昭師は第18代目にあたります。

最願寺では、毎月第2土曜日に小学生を対象とした子供会が開催され、既に10年以上続いており、毎月20人位の小学生が参加し、少年教化に取り組んでいます。

また現在の山門は、大正14年に造られた旧山門の老朽化が進み、住職や門徒の悲願であった再建を現住職継職記念事業として、平成14年に着工し、平成15年末完成致しました。

現住職は地域の活動にも積極的に参加し、地域に根付いたお寺をめざしています。地域の人々が気軽に足を運べるお寺ですので、それ以外の方も是非一度お参りして下さい。



一地域に密着したお寺一

さい がん じ
最願寺

横浜市鶴見区矢向4-19-18

お手々のしわとしわをあわせて…しあわせ

日本の美・日本の心をお届けします。

お仏壇・墓石 はせがわ



しあわせ少女ゆうかちゃん

横浜・川崎地区的店舗ご案内

金沢文庫店	横浜市金沢区谷津町352-7 オオサワヒルズ1F	0120-876-768
上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	0120-767-628
戸塚店	横浜市戸塚区柏尾町440-1	0120-767-627
今宿店	横浜市旭区今宿東町1621	0120-767-658
新杉田店	横浜市磯子区杉田1-2-3	0120-484-883
長津田店	横浜市緑区いぶき野3-1	0120-744-194
鶴見駒岡店	横浜市鶴見区駒岡町4-23-4	0120-176-761
日吉店	横浜市港北区日吉3-4-8 リバーサイド日吉	0120-639-010
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	0120-876-768
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	0120-767-577
町田森野店	町田市旭町1-8-20	0120-768-201
向ヶ丘遊園店	川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘	0120-594-345

営業時間／午前10時～午後7時 日曜・祝日も営業いたしております。



お仏壇・墓石
はせがわ

昭和59年 京都西本願寺阿弥陀堂
昭和62年 京都清水寺開山堂御厨子
三重塔堂内修復事業
昭和63年 福岡証券取引所
業界初の株式上場
平成6年 大阪証券取引所第2部
株式上場

製造部
(株)はせがわ美術工芸
(国宝美術品、寺院神社)
(株)はせがわ仏壇工房明日香工場
(純金箔仏壇)
(株)はせがわ仏壇工房大川工場
(唐木仏壇)

業界初の上場企業
関東地区82店舗・全国で114店舗

～お仏壇、お仏具等～
**特別価格
大奉仕中!!**
※セール商品は除きます。

墓石・霊園も
好評お取り扱いしております。

わたしたちのお寺です

浄土真宗本願寺派 神奈川組

えんこうじ 円光寺	〒210-0814 川崎市川崎区台町 4-21 石川 康承 ☎ 044-266-2677
ほうえんじ 宝円寺	〒210-0838 川崎市川崎区境町 5-10 飯田 琢亮 ☎ 044-222-3941
こうとくじ 光徳寺	〒210-0848 川崎市川崎区京町 1-14-3 林 信順 ☎ 044-333-3997
しょうらくじ 正樂寺	〒212-0016 川崎市幸区南幸町 2-49 佐々木俊博 ☎ 044-522-1961
こうがんじ 高元寺	〒211-0051 川崎市中原区宮内 4-3-12 宮本 義孝 ☎ 044-777-6544
ちょうねんじ 長念寺	〒214-0014 川崎市多摩区登戸 1416 小林 泰善 ☎ 044-911-2549
じょうねんじ 常念寺	〒215-0033 川崎市麻生区栗木 203 古市 道仁 ☎ 044-988-0205
じょうしょうじ 净照寺	〒216-0004 川崎市宮前区鷺沼 2-5-7 加藤 孝充 ☎ 044-855-2780
ぜんりゅうじ 善龍寺	〒221-0811 横浜市神奈川区斎藤町 29-51 斎藤 幸紹 ☎ 045-491-9431
ぜんきょうじ 善教寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2396 平等 勝尊 ☎ 045-541-7684
きょうがくじ 教覚寺	〒223-0057 横浜市港北区新羽町 2395 平等 真証 ☎ 045-531-5050
こうりんじ 光輪寺	〒223-0064 横浜市港北区下田町 3-2-9 村石 恵照 ☎ 045-561-8671
とうぜんじ 東善寺	〒224-0001 横浜市都筑区中川 7-18-29 長谷尾芳雄 ☎ 045-911-3509
ちょうとくじ 長徳寺	〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西3-9-1 平塚 大乗 ☎ 045-911-7351
じゅふくじ 寿福寺	〒224-0033 横浜市都筑区茅ヶ崎東1-7-1 多田 龍空 ☎ 045-942-3721
さいじょうじ 最乗寺	〒224-0034 横浜市都筑区勝田町 1277 日野 教昭 ☎ 045-941-3541

じおんじ 慈恩寺	〒224-0055 横浜市都筑区加賀原 2-18-1 小泉 敬信 ☎ 045-934-8648
さいしょじ 西勝寺	〒225-0003 横浜市青葉区新石川 1-10-8 藤下 悅乘 ☎ 045-911-0156
ちょうえんじ 長延寺	〒226-0015 横浜市緑区三保町 2440 (代務)高杉 俊教 ☎ 045-932-3348
さいがんじ 最願寺	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向 4-19-18 藤江 義昭 ☎ 045-571-4694
ほうこうじ 宝光寺	〒231-0062 横浜市中区桜木町 3-5 藤田 恭順 ☎ 045-201-3509
せんねんじ 善然寺	〒232-0061 横浜市南区大岡 2-26-17 長谷山顕俊 ☎ 045-741-2351
せんしょじ 宣正寺	〒232-0063 横浜市南区中里 3-20-18 早島 大英 ☎ 045-731-2679
せいらいじ 清来寺	〒241-0034 横浜市旭区今宿南町 1895 曾我 求真 ☎ 045-951-0012

本願寺築地別院都市開教布教所

横浜布教所	〒240-0065 横浜市保土ヶ谷区和田 2-12-19 開田 蓮成 ☎ 045-341-7455
三ツ境布教所	〒241-0816 横浜市旭区笹野台 3-9-9 寺田 崇裕 ☎ 045-364-2266
磯子布教所	〒231-0835 横浜市中区根岸加曾台 25-47 中戸 達雄 ☎ 045-623-4480
青葉布教所	〒227-0033 横浜市青葉区鳴志田町 567-13 西村 信也 ☎ 045-961-3737

地域内の東京教区寺院

みよしき組 妙延寺	〒215-0002 川崎市麻生区多摩美 1-27-1 山本 浩真 ☎ 044-966-5304
西組 覺永寺	〒225-0004 横浜市青葉区元石川町 6391 喜代多證宣 ☎ 045-901-0570

かながわそ 「神奈川組」とは…

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

組長／小林 泰善
教区会議員／佐々木俊博 副組長／長谷山顕俊 相談員／藤江 義昭
根本 猛（門徒） 副組長／早島 大英 相談員補佐／古市 道仁

一茶の俳句から

みだ仏のみやげに年を拾ふ哉



六十五に近いときの俳句だと思います。いよいよ阿弥陀仏の浄土に生まれる老いの身になつたという感概ですが、ただ年を取るというのではなくて、これは信心を得ている一茶ですから、いつ浄土に生まれてもいいんです。これだけ年を取るというのは「法を聞け。阿弥陀仏の願いの教えを聞きなさい。そのため年を取りさせて頂いているんだよ」ということが含まれているのです。徒やおろそかに長生きするんではなくて、法をきくために長生きをさせたりつているんだ。だから、そのことがそのまま浄土への土産になるといふことは、浄土往生のための念仏の教えを、年を取つて死ぬまで聞き続けていく。聞法のあけくれがそのまま阿弥陀仏への土産になる。私にとって阿弥陀仏の願いに応える道は、長生きすることなんだ、という。これが浄土真宗の篤信者の心境なんですね。奇しくも一茶は俳句を通して、このことを表現したのです。

早島鏡正著『念佛一茶』
四季社刊より



浄土真宗本願寺派（西本願寺）

横浜市都筑区勝田町1277
浄土真宗 最乗寺
電話 045-941-3541

組報かながわ No.17

■発行日 2004年3月15日
(毎年1回3月発行)
■編集発行 浄土真宗本願寺派
東京教区神奈川組
基幹運動推進委員会

〒214-0014 川崎市多摩区登戸1416 長念寺内